

イベント参加高校・塾・予備校・企業 ほか

高等学校

【東京都】

N/S/R高等学校
学校法人角川ドワンゴ学園
創学舎高等学校

【福井県】

福井県立敦賀高等学校

【岐阜県】

多治見西高等学校

【静岡県】

静岡県立磐田南高等学校

【滋賀県】

近江兄弟社高等学校
クラーク記念国際高等学校
光泉カトリック高等学校
滋賀県立八幡工業高等学校
滋賀県立栗東高等学校

【京都府】

京都芸術大学附属高等学校
京都聖カタリナ高等学校
京都府立洛東高等学校

【大阪府】

アサンプション国際高等学校
ヴェリタス城星学園高等学校
英風高等学校
追手門学院高等学校
大阪学院大学高等学校
大阪高等学校
大阪商業大学堺高等学校
大阪女学院高等学校
大阪青凌高等学校
大阪府立茨木工科高等学校
大阪府立桜和高等学校
大阪府立金岡高等学校
大阪府立堺工科高等学校
大阪府立鶴見商業高等学校
大阪府立西野田工科高等学校
大阪府立東高等学校
大阪府立東淀工業高等学校
大阪府立枚方なぎさ高等学校
大阪府立守口東高等学校
大阪府立淀川工科高等学校
開明高等学校
Gakken高等学校 堺新金岡キャンパス
関西大学高等部
近畿大学附属高等学校
金蘭会高等学校
クラーク記念国際高等学校
賢明学院高等学校
香里スヴェール学院
堺リベラル高等学校
常翔学園高等学校
城南学園高等学校
精華高等学校
専修学校クラーク高等学院 大阪梅田校
宣真高等学校
箕面学園高等学校
箕面自由学園高等学校
明星高等学校

利晶学園高等学校
ルネサンス大阪高等学校
早稲田大阪高等学校

【兵庫県】

愛徳学園高等学校
尼崎市立尼崎双星高等学校
近畿大学附属豊岡高等学校
賢明女子学院高等学校
甲南女子高等学校
神戸第一高等学校
小林聖心女子学院
三田松聖高等学校
神港学園高等学校
専修学校クラーク記念国際高等学校
専修学校クラーク高等学院 姫路校
仁川学院高等学校
兵庫県立明石北高等学校
兵庫県立明石南高等学校
兵庫県立尼崎小田高等学校
兵庫県立尼崎北高等学校
兵庫県立加古川西高等学校
兵庫県立川西明峰高等学校
兵庫県立東播磨高等学校
兵庫県立村岡高等学校
六甲学院高等学校

【奈良県】

奈良県立香芝高等学校
奈良県立橿原高等学校

【和歌山県】

和歌山県立慶風高等学校

【岡山県】

岡山県立岡山工業高等学校
就実高等学校
ワオ高等学校

【広島県】

広島桜が丘高等学校

【徳島県】

徳島県立つるぎ高等学校

【香川県】

尽誠学園高等学校

【長崎県】

長崎県立佐世保北高等学校

【沖縄県】

N高等学校

塾・予備校

【東京都】

代々木ゼミナール

【愛知県】

樹塾

【京都府】

ゴールフリーLab
成基

【大阪府】

ITTO個別指導学院大阪小松校
家庭教師参
スクールIE光明池校
武田塾医進館
トライプラス池田荘園校
トライプラス江坂校
明光義塾あびこ教室
明光義塾 五月が丘教室
代々木ゼミナール大阪南校

【兵庫】

岡村予備校
創学ゼミ
創造学園
大学進学塾one-half
武田塾神戸板宿校
阪神進学アカデミー
明光義塾西宮北口教室

【奈良県】

KEC Glows

【和歌山県】

進学教室アシスト

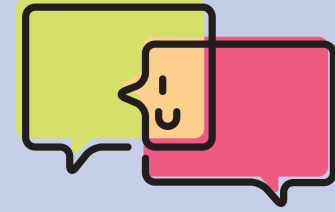
【愛媛県】

創成

企業・団体

株式会社イード
株式会社ベネッセコーポレーション
ライティングオフィス・トリガーワークス
連合振興町会

学びをつなぐ 総合会議



2026年 高大接続総会 実施報告書

大阪会場

2026年
5月29日(金)
13:00~18:00
梅田スカイビル
タワーウエスト3階
ステラホール

来場者数 180名 ● 高等学校教員:131名 ● 塾・予備校:40名 ● 企業・団体その他:6名 ● 大学:3名

大学ブース出展大学

桜美林大学
大阪医療大学
大阪学院大学
大阪学院大学短期大学部
大阪経済大学
大阪経済法科大学
大阪工業大学
大阪公立大学
大阪女学院大学
大阪女学院短期大学
大阪成蹊大学

大阪成蹊短期大学
大阪保健医療大学
大谷大学
金沢工業大学
鹿屋体育大学
関西大学
関西学院大学
九州工業大学
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都外国語短期大学
京都精華大学
京都先端科学大学

京都橘大学
甲南大学
神戸女子大学
Co-Innovation University
山陽小野田市立
山口東京理科大学
芝浦工業大学
摂南大学
千葉工業大学
千葉商科大学
中央大学
東京農業大学
同志社大学

長浜バイオ大学
奈良県立大学
奈良大学
兵庫県立大学
広島県公立大学法人
叡啓大学
広島工業大学
三重大学
武庫川大学
(2027年4月共学化/武庫川女子大学)
和歌山大学



これからなにが起きるのか。 変化を読み解くヒントを見つけてください。

東京、大阪、福岡。みなさまのお力添えで、今年も3つの接続総会を終えることができました。会場の様子を眺め、来場者のみなさま、出展大学のみなさま、それぞれ「接続総会の参加の仕方」が多様になっていると感じました。「プレゼンコーナー」で「わかべんクリニック」で「おしゃべりプラザ」で、そして各大学の出展ブースで、「高大」だけではなく、さまざまなひとが縦横無尽に「接続」していったようです。コロナ禍以降、世界は驚くほど姿を変え、求められる教育も一変しました。これからなにが起きるのか、どのように変化を乗り越えていったら良いのか。ひととひとがつながり、語り合うことがなければ、答えは決して見つけられません。接続総会を、その機会のひとつに。来年、また接続総会でお会いしましょう。

アロー教育総合研究所 所長 田嶋 裕



オープニングスペシャルプログラム

大学受験BIG3トークセッション 「2030大学クライシス」

元・駿台進学情報事業部長／
教育ジャーナリスト

石原 賢一様

代々木ゼミナール
教育情報センター 教育情報室

木戸 葵様

株式会社ベネッセコーポレーション
教育情報センター長

渡辺 健太様

《司会》「進路づくり」の講師／
高大共創コーディネーター

倉部 史記様

の新設学部ラッシュ、理系女子を対象とした「女子枠」の拡大、地方公立大での「入試科目負担の軽減」を挙げた。これらはチャンスが増える動きである一方、高校1年時からの文理選択や探究活動の在り方を根本から見直す必要があることを示唆している。

さらに重要なトピックとして、文科省が決定した「年内入試における面接の必須化」が挙げられた。2027・2028年度は経過措置として従来型を継続できるが、将来的な必須化は確実だ。石原氏は「大規模大学がどう面接を実施するのか。オンライン面接の活用などが予想されるが、現段階では各大学とも検討中であるため、高校側は焦らず今後の公式発表を注視してほしい」とアドバイスを送った。

特に関西圏では、武庫川女子大学の共学化や交通利便性の高い新設大の台頭が受験地図を変える要因となる。渡辺氏は「東日本では探究の成果を武器に、年内入試で第二・第三志望を戦略的に確保する動きが定着している。関西でも一般一本槍ではなく、年内の併願戦略を早期から保護者としてり合わせることも重要」と語った。

セッションの締めくくりとして、財務省による「私立大250校削減案」に対し、木戸氏は切実な思いを語った。「世間の一部には『定員割れの大学は潰れてもいい』という冷ややかな空気もあるが、地域の介護や保育、福祉の担い手を育てる大学が消えることは、地域社会の崩壊に直結する。大学がなくなる意味を社会全体で問い直さなければならない」。

3氏の報告は、単なる受験テクニックにとどまらず、子どもたちが未来に希望を持って進学できる社会をいかに創るかという、高大共創の使命を再認識させるものであった。



大学プレゼン 「志願者1.9倍増加!」大阪成蹊大学が新しいカタチの経済学部を誕生させる

「本学の志願者が1.9倍に急増しています」と、大学の圧倒的な勢いを語るのは入試広報部の石田氏だ。併願先として追手門学院大学などが増加する中、文理芸を網羅する多様な学部構成と抜群のサポート体制が高校生の心を捉えている。

今年度最大のトピックスは、新キャンパスの誕生とともに開設された経済学部だ。心理学と経済学を融合した最先端の「行動経済学」を1年次から全員が学べるカリキュラムは、他大学にない同大だけの大きな強みである。さらに、データサイエンス学部や看護学部、9年連続就職率100%を誇る教育学部など、時代が求める専門性を磨く環境が揃う。就職実績も特筆すべきだ。学生1人を大人3人で支える手厚い「アドバイザー制」や、4年間無料で利用できる英会話施設、1年次からの企業連携型PBL授業により、実就職率は3年連続で大阪1位を獲得。関関同立レベルの難関企業へも多数の輩出実績を誇る。

さらに今年度から入試制度を大幅に刷新。総合型選抜の刷新に加え、一般入試の出題傾向を併願者の多い追手門学院大学に近づけることで、受験生の負担を劇的に軽減した。共通テスト後に挑戦できる後期日程も新設されている。

阪急「相川」駅からスグという好立地も備え、「関関同立や産近甲龍を目指す生徒の併願先としても、自信を持って勧められる大学です」と熱く締めくくった。



大阪成蹊大学
入試広報部 次長

石田 智之様

大学プレゼン 千葉商科大学「宮崎緑学長と進める大学改革」

元NHKキャスターであり、令和の元号制定時にも有識者を務めた宮崎緑氏。同氏を新学長に迎えた千葉商科大学の強みは、高い倫理観と実社会で役立つ力を兼ね備えた人材を育てる実学教育にある。防災や環境・エネルギーに関する取り組みもその一例であり、大学所有のメガソーラー発電所や太陽光パネルなどの発電量と大学のエネルギー使用量を同量にする「自然エネルギー100%大学」の取り組みを学生とともに実施している。学生が、日頃感じている意見を学長と自由に交わすことができる「学長トークイン」では、学生自らが起業・運営する「学生ベンチャー食堂」における脱・使い捨て容器が学長に提案され、切り替え準備が進むなど、生きたビジネス感覚と高い倫理観が育まれている。

確かな成長を支えるのが、データに基づく多面的な入試制度だ。同大の調査では、一般選抜においても高校時代の「評定平均値」をはじめ、課外活動・保有資格・出欠状況を含む調査書の内容が、入学後のGPAの伸びと相関を示すことが判明。現在はすべての一般選抜で調査書を点数化し、よりアドミッション・ポリシーに合致する学生が力を発揮しやすい入試制度としている。出願基準が比較的易しい一般総合型選抜の入学者の場合は、自営業や海外留学などへ果敢に挑戦する行動派が多いことも実証済みだ。

多様な入試で個々の可能性を見出し、1100社以上の提携企業と共に卒業後の幸せまでを見据えて伴走する同大。「入学してよかったと一生思い続けられる大学」への進化に、多くの期待が寄せられた。



千葉商科大学
入学センター 課長

村上 春香様

大学プレゼン 女子大ルーツの特色ある共学大学への転換

長年培ってきた女子教育の土台の上に、新たな「共学」の歴史を刻み始めた武庫川大学。大きな変革期を迎えた現状を語るのは立花氏である。全国規模の調査で「女子の約7割が共学志向」というデータに基づき共学化へ踏み切った結果、直近のオープンキャンパスでは女子生徒の参加が1.5倍に急増し、新体制への確かな反響を得ている。

進路指導において注目すべきは、受験生の強みを活かせる柔軟な入試制度だ。「未来教育総合型選抜」と「公募制推薦入試」の併願者が増加する中、未来教育で合格すれば公募制推薦の検定料が返還される独自の制度を導入。第一志望の生徒へ積極的に推奨しやすい仕組みである。

公募制推薦入試は統合型選抜での実施のため学校長の推薦書は不要である。「スタンダード型」の受験を必須としつつ、「調査書重視型」「高得点科目重視型」「英語外部検定利用型」といった複数のオプション判定を追加でき、生徒が得意分野で勝負できるのが大きな魅力だ。手続きの負担を減らす「まとめて出願」制度も用意されている。「今後は年明けの一般選抜にも注力し、多様で意欲的な学生を迎え入れることで、大学全体の学びの質をさらに高めていきたい。共学化という話題性だけでなく、ぜひ本学の教育の中身を見て生徒さんにお勧めいただきたい」と立花氏は結んだ。



武庫川大学(2027年4月共学化「武庫川女子大学」から名称変更予定)
アドミッションセンター次長兼入試課長

立花 弘資様

大学プレゼン 広島県公立大学法人観啓大学 学生がつなぐ～観啓大学の高大接続～

今年開学5周年を迎えた観啓大学は、1学年100名規模ながら留学生含む学生の4人に1人以上が海外にルーツを持つグローバルな公立大学だ。総合型選抜を重視し、リベラルアーツ教育と、企業のリアルな課題にチームで挑む課題解決演習を軸にした実践的なカリキュラムを展開している。

卒業単位の半分以上を英語で取得する必要がある、英語力の育成にも力を入れる。これについて、村本氏は「英語をつかって“何をするか”を重視している」と強調。他にも国内外それぞれ2週間以上、社会の中での体験を課す「体験・実践プログラム」を必須とし、学生の成長を促す様々な機会を用意している。高大接続では、学生が高校生の壁打ち相手として関わることも多い。

こうした環境で主体性を磨き、商社への内定を獲得した4年の青木さんは、少人数対話型の授業や演習を通じて「発表力だけでなく、いかにチームや伴走する高校生を主役にするかという共同力が養われた」と成長を振り返る。同大では学生が独自のプロジェクトに挑戦していることが多く、青木さん自身もタスク管理ツールの開発や留学生向けの支援サービス考案、フィリピンでのボランティアなどに精力的に挑戦してきた。最後に青木さんは「大学での学びや海外活動に挑戦するためにも、高校時代から英語の土台を身につけておくのが大切」と先生方へ伝えた。



広島県公立大学法人観啓大学
ソーシャルシステムデザイン学部
4年生

青木 一真様

広島県公立大学法人観啓大学
教学課入試係
係長

村本 裕子様

就活激変！ 学歴フィルターの真実

大学ジャーナリスト
石渡 嶺司様

現在の進路指導において根強く囁かれる「学歴フィルター」の現状に、新たな評価の視点をもたらすのが石渡氏である。かつての就職氷河期には、企業が応募者を制限するために就職情報サイトのフィルタリング機能を多用し、大学名による足切りが定着していた。高校の現場でも「特定の難関大学でなければ就職に不利になる」という、学歴偏りに近い指導が行われてきた背景には、こうした厳しい時代的裏付けがあった。

しかし、現代の就職市場は大きく変貌を遂げている。石渡氏によると、現在の学歴フィルターは「半分ウソで、半分ホント」だという。2010年代半ば以降は11年連続で就職率が70%を超える売り手市場であり、企業側が苦しむ「採用氷河期」へ構造が変化したからだ。さらにSNS世論やコンプライアンス意識の高まりから大学名での選考は企業リスクとなり、総合商社や外資系など一部の企業を除き、多くの大企業や中堅企業で採用大学の幅が広がっている。従来の学歴フィルターは、今や確実に形骸化しているのだ。

では何が「半分ホント」なのか。それは、実質的な学歴フィルターとして「適性検査」が機能している点だ。多くの企業がその初期選考で国語や数



学（非言語分野）の適性検査を導入し、大学名に関わらず低得点者を容赦なく足切りしている。企業にとって「公平な試験の結果だ」と客観的に反論できる利点があるためだ。しかも、オンライン受検の不正対策として中盤以降に対面で再検査したり、面接中に数学の口頭試問を行ったりする大企業も増えている。つまり、大学名ではなく「高校数学レベルの基礎知識」の有無が、就活の真の境界線なのだ。

このような背景から、これからの高校の進路指導においては、旧来の学歴偏重な視点から脱却することが求められる。「難関大以外は意味がない」といった短絡的な学歴偏りは現在の採用実態には即していない。今や学歴だけを理由にした短絡的な大学選択の意味は薄れており、本当に必要なのは、文系・理系を問わず、社会人生活の基盤となる「数学の基礎力」を継続して学ばせることだ。就職市場の構造変化を見据え、適性検査という現実的な壁を突破できる確かな学力を身につけさせることがこそが、生徒の将来を豊かにする進路指導だと石渡氏は強く促した。



近畿大学 常任理事 経営戦略本部長
世耕 石弘様

近畿大学は、「実学教育」を建学の精神に掲げ、社会に役立ち、かつ利益を生み出して次の研究へと投資する循環型教育を展開している。世耕氏いわく、同大はマグロの完全養殖に代表される高い研究力で知られるが、2026年2月には世界初「ノドグロ」の完全養殖成功を発表。歴史に裏打ちされた育てる漁業の技術は、日本の水産業や世界の食卓に革新をもたらしている。昨年の万博への出店では11万人を超える来場者を記録し、異なる魚種を掛け合わせた「サラブレッド魚」など未来の技術を披露した。

同大は、関西の総合私学の中でも際立って理系教育に力を入れ、理系と文系の学部構成比は約50%である。経営的には負担の大きい理系を充実させてきたエビデンスは、世界大学ランキングで関西私学トップクラスに位置する実績にも表れている。さらに近年は、医療や次世代の学びへの投資も加速している。一大プロジェクトとして約1000億円を投じた「近畿大学病院」の大規模移転を完遂し、堺市に新病院を開院。翌年4月に開設された看護学部では、男性看護師の育成にも本格的に着手している。また、多様な学びのニーズに対応するため通信教育も拡充しており、新設された建

築学部の一級建築士受験資格取得コースには東大や京大、早慶といった他大学の卒業生も含め、18歳から79歳までの幅広い層が全国から集い、約2000人が製図実習等に励んでいる。

何より重視しているのが、学生が自発的に学びたくなる「場と空気（雰囲気）」づくりだ。アカデミックシアターには、24時間利用可能な自習室や女性専用自習室、数万冊の漫画を含む多彩な蔵書が整備されている。24時間開放の起業支援施設やeスポーツアリーナの開設、24時間利用可能なジムのリニューアルなど、学生が自然と大学に集まる環境を整えた。すでに200社を超える「近大発ベンチャー」が誕生し、学内で学生にラーメン店を経営させる起業支援も定着。近年は社会課題解決志向の優れたプレゼンを行う学生が急増中だ。広報戦略においても革新を続け、今年からは紙の大学案内を完全に廃止し、SNSと生成AIを活用したデジタル広報への全振りも決定。海外のクリエイターと連携し、AIを活用して低コストかつハイクオリティで制作されたプロモーション動画は、感度の高い若者の心を捉えている。時代の一步先を行く姿は、高校教師が生徒や保護者へ自信を持って推薦できる魅力に満ちあふれている。



国際教養大学って、ナンダ??

国際教養大学 国際教養学部 グローバル・スタディズ領域 准教授

工藤 尚悟様

「進路づくり」の講師／高大共創コーディネーター

倉部 史記様

「国際教養大学は、学生数約700人、教員数61人という小規模大学であり、全ての授業を英語で行うことが大きな特徴です」と話すのは、同大の工藤氏だ。高大共創のプロである倉部氏が「（ここだけ見ると）英語力に自信がある生徒が集まる大学という印象ですが…」と問いかけると、工藤氏は「英語を学ぶ大学ではなく、英語で学ぶ大学です」と応じた。重要なのは英語力そのものではなく、英語を使って何を学びたいのかという目的意識だという。

実際、入学後は全員が大学で学ぶための英語を身につけるプログラムに取り組む。英語が得意な学生でも学ぶテーマが定まらなければ苦勞する一方、入学時は英語に不安があっても、明確な問題意識や探究心を持つ学生が大きく成長するケースも多いという。倉部氏も大きく頷きながら、「高校で育てるべきは英語力だけではなく、学びたいテーマを持つ力なのかもしれないですね」と応じた。

対談が熱を帯びたのは、リベラルアーツ教育とAI時代の学びについて語られた場面である。工藤氏は、同大学が育成を目指す力として「統合知」と「人間力」を挙げた。政治、経済、ビジネス、テクノロジーなど異なる分野の

知識を結び付け、課題解決につなげる力である。

「専門知識を深く学ぶことは大切です。しかしAIが発達する時代だからこそ、問いを立てる力や知識を編集する力が求められます」。その言葉に倉部氏も感心した様子で、「探究学習が目指す方向とも重なりますね」と応じる。知識を蓄積するだけでなく、多様な知見を組み合わせる新たな価値を生み出す力の重要性が浮かび上がった。

また、国際教養大学では4年間のうち1年間の交換留学が必須となっている。提携校は世界200校以上に及び、学生たちは異なる文化や価値観の中で学ぶ経験を積む。工藤氏は、自身の韓国留学の経験を例に、「物事を反対側の視点から見る経験が、グローバルな視野を育てる」と語った。

対談の終盤、工藤氏は「大学選びは『何を学ぶか』だけでなく、『誰とどう学ぶか』で考える時代になる」と強調した。インターネットやAIによって知識へのアクセスが容易になった今だからこそ、人との対話や現場での体験、一人称の経験が大きな価値を持つ。高校生の進路指導を考える上でも、多くの示唆を与える対談となった。



高校生のオンライン塾【展覧堂】代表

天童 辰也様

大学受験系YouTubeの闇（活用法）

多くの受験生や保護者が日常的に視聴し、時に学校の先生の言葉以上に信じ込んでしまう「大学受験系YouTube」。その仕組みと、進路指導への活用法について語ったのは天童氏である。動画の内容を真に受けて迷走する生徒にどう向き合うべきか。天童氏は、YouTube番組の裏側にある「闇」を明かしつつ、高校教員や進路指導担当が主導権を握るためのアプローチを提示した。

まず知るべきは、受験系動画の多くが「塾の営業目的」で制作されているという舞台裏だ。受験生や保護者の不安に刺さるよう巧みに演出されている。天童氏によると、中にはチャンネル登録者数を購入しているケースや、顔出しをせず責任の所在があいまいな動画もあり、登録者数や再生回数だけで信頼性を判断するのは危険だという。一方、マスク姿でも自身の塾名を明記し、責任を持って発信している動画は比較的信頼できると指摘する。

では、教員はこのメディアとどう対峙すべきなのか。天童氏は「排除するのではなく、受験生の需要を把握するツールとして割り切るべきだ」と提案する。例えば、同じ内容でも年によって動画の再生回数は異なる。最新の動

画で再生数が伸びているテーマを分析すれば、いま目の前の生徒や保護者が何に不安を感じ、どんな情報を求めているのかという「リアルな関心」を察知できる。また、中には「オフィス藤原」や「カワボンちゃんねる」のように、データ分析を徹底しており、教員側の情報収集ツールとしても非常に有益なチャンネルが存在することも紹介された。

また天童氏によると、進路指導における最大の武器となるのが「個性」の強調だという。生徒が「YouTubeでこう言っていた」と主張した際、それを頭ごなしに否定するのではなく、「動画が語っているのは、あくまで一般論や個人の限定的な経験談に過ぎない」と諭することが重要だ。YouTubeには、画面の向こうにいる生徒一人ひとりの学力や性格、家庭環境に合わせた指導は絶対にできない。

お悩み相談 「わかベンクリニック」

人気企画「若手高校教員向けオンライン勉強会」、通称「わかベンクリニック」を会場で対面開催しました。「進路指導についてもっと勉強したい、アップデートしたい」。そんな先生方の想いに応え、各テーマのエキスパートが悩みに効くヒントを処方しました。



高校生向け探究プログラム「ディスカバ!」のミニ体験

桜美林大学 入学部 ディスカバ!事務局 今村 亮様



課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現を繰り返し、学びを深める探究サイクル。今村氏は、「桜美林大学の入試でも、この探究サイクルを身につけた学生を求めている」と言い、最も重要な「課題の設定」に着目した。ここで、同学4回生の宮城（みぎら）君が、高校時代の大阪メトロに関する探究学習で、緊急通報のスマホアプリ化を提案した経験を紹介。それに伴い今村氏が「問い立ての方程式」として、「キーワード①×キーワード②×疑問詞＝問い」を提示した。宮城君の事例に当てはめると、「大阪メトロ×安全×どのように?＝大阪メトロで緊急事態が起こったらどうしたらいい?」となる。そして、会場を巻き込み、「大阪メトロ」をテーマに問い立ての練習を実施。参加者からは、混雑解消、外国人観光客対応、発着音楽などに関する問いが生まれた。問いについて、「正解がすぐ出ないこと、検証可能なアクション、ワクワクする内容の3つが重要。抽象的すぎる問いは避ける」と結んだ。

入試に直結する文系探究

代々木ゼミナール／Z会東大進学教室／日世教育研究社 犬丸 征一郎様



犬丸氏は、2029年度から総合型・推薦型選抜で面接が必須化される一方で、「論述型試験が増加傾向にある」と指摘した。その上で、「論理的な文章構成力を養う点で、探究学習が大学入試に有効」と語った。特に論述問題では、箇条書きでなく論理的な答案が評価されるため、探究学習におけるアウトプットの訓練が有効であること。そのため普段の学習で「何が」「なぜ」「どうして」と考えること。さらに一つの問題に対し、複数の観点から一つでない答案を想定すること。「これらを習慣化することで文を組み立てる精度は上がり、科目を問わず、入試の場で未知の問いに即応する能力が培われるのでは」と力説した。また、高校の単位数削減が進む中で、教える側の「教え方」についても提言。「例えば『歴史』の場合、教科書の細かい知識より、歴史学の本質を抽象化して教えるのも一つの解ではないか」と述べた。最後に、探究学習を入試突破のためではなく、大学入学後の学びにつなげる「頭の体操」として位置づけることも推奨した。

ゼロからはじめる小論文

河合塾小論文科 広川 徹様



広川氏は、大学入試の「小論文・総合問題」の指導方法について解説した。まず、出題形式は課題文読解型、図表分析型、テーマ型、英文問題、理科論述型の5種類。出題内容を、「学部・学科の特性に沿ったテーマ」「グローバルな社会的課題」「一般的な教養や社会常識」の3つに大別した。その上で広川氏は、「小論文の回答作業は『読む・考える・書く』が連動した知的作業であり、指導の目標としては、その連動の精度・効率を上げていくこと」と語った。具体的には、①課題文の読解、②設問への応答、③論述の展開、④答案の構成の4段階を意識させることが指導の基本。そのためには問題演習が不可欠で、問題の選定、答案の作成、採点・添削、そして最も重要な問題の解説という作業が存在する。広川氏は、「教員の負担軽減のため、AIを積極的に活用すること」を推奨。「AIに資料を読み込ませて、テーマ解説や解答例を作成させることで、指導の精度・効率も高まる」と提案した。

進路指導法。学部学科選択の視野を広げる!

龍谷大学 高大連携推進室フェロー 堀 浩司様



「学部学科選択をワクワクしながら行う」、そのためのヒントが提示された。最初に堀氏は、「進路は3年生になってからではなく、3年間かけて決める」と強調。文理選択、学部学科選択、志望校選択、受験スタイル選択とスモールステップを踏むことの重要性を伝えた。そして、「文系・理系は、脳の使い方の違いでもある」とし、文系は「情報を具体的に捉え膨らませる思考」、理系は「情報を削ぎ落としシンプルに整理する思考」と説明。ただ、「変化が激しく先を見通しにくい時代、両方の考え方を身につけたほうが役に立つ」「学部選択は就職先で決めない。企業は、専門性より主体性や課題発見力を重視している」と語った。最後に、やりたいことが分からない生徒への対応策として、「数百万円の買い物をするつもりで、徹底的に調べて動いてみるのが大切」「大学は自分で学びを決め、自由と責任を持って取り組む場所。高校の全ての科目は、人生に必要な教養の基礎になる」とエールを送った。

総合型選抜で役立つ新聞・資料の読み方調べ方

大学ジャーナリスト 石渡 嶺司様



「ザル入試」と批判もされた推薦・総合型選抜は、2021年から総合型選抜・学校推薦型選抜に名称変更。選抜基準が強化され、小論文・面接それぞれで、学部・学科に関する知識や入学後の研究意欲が問われている。石渡氏は、「かつてのように、『部活を頑張った』『興味がある』では不十分で、志望分野に対する『意欲の深掘り』が求められる」と語る。例えば経済学部の場合、「経済・ビジネス関連でどんな本を読んだか?」「気になるニュースは?」「その感想は?」など、具体的な質問が出されるという。答えるためには、熱意だけでなく根拠が必要で、その対策が「入門書や関連記事を読むこと」だと力説した。入門書の探し方としては、「大学・学部のサイトやYouTube」「オープンキャンパスでの質問」「高校や公立の図書館のレファレンスサービス」などを推奨。新聞は、「800~1000字の社説を読んで『主張と概要』を掴む」「各紙の専門面で志望分野の最新テーマを知る」ことが有効だとした。

「プレゼン」「レポート」「ディスカッション」指導のポイント

河合塾小論文科 田本 正子様



多様化する総合型・学校推薦型選抜の選抜方式。面接や小論文以外では、プレゼンテーション、ディスカッション、課題レポート、模擬講義レポート、読書レポートなどさまざまなが、田本氏は「共通する評価の本質は、現時点の完成度ではなく、『学ぶ力』のポテンシャル」だと言う。重要なのは、アドミッションポリシーとのマッチングと問題発見・解決能力。「必ずしも、しゃべりや文章が上手な人が受かるわけではない。その学問に取り組む意欲や、自分で考えた跡があるかが評価される」。また、大学で学び続けるためには、「理解力」「論点整理の力」「表現力」の3つが必要だと述べた。「理解力」は、授業やディスカッションを通じて、情報や他者の意見をインプットすることで育つ。「論点整理の力」とは分析や思考により、「ここで論じるべき問題は何か?」を設定する力。「表現力」の指導では、「アウトプットの訓練を繰り返し、良い点を褒めた上で改善点を示すフィードバックが効果的」とした。

難関大学の総合型選抜攻略法

総合型選抜入試塾専門塾 EQAO代表 玉村 ナオ様



志望理由書を、「自分なりに研究行動してきたけど、限界を迎えたから、大学さん教えてください」と定義する玉村氏。ポイントに、「好きなことを学問につなげること」「答えを出すのではなく」「限界を自覚すること」の3つを挙げた。志望理由書の構成は、①ビジョン（具体的に）、②きっかけ（当事者性）、③研究プロセス（限界の自覚）、④大学の必要性（教授やカリキュラム）、⑤理念との共鳴の5段落。「8~9割を自分で調べて『わからない』と自覚し、残り1~2割を大学で学びたい。その姿勢が鍵」と述べた。さらに、実例として「『世界の果てまでイッテQ!』好きの生徒が、テレビのコンプライアンス問題と広告収益を研究し、新聞学科に合格」「日本酒文化に興味のある生徒が輸出データを調べ、経営学の限界を感じて経営学部合格」を紹介。「ボランティアや部活の実績は、研究テーマに関係する場合のみ書く」と付け加えた。

